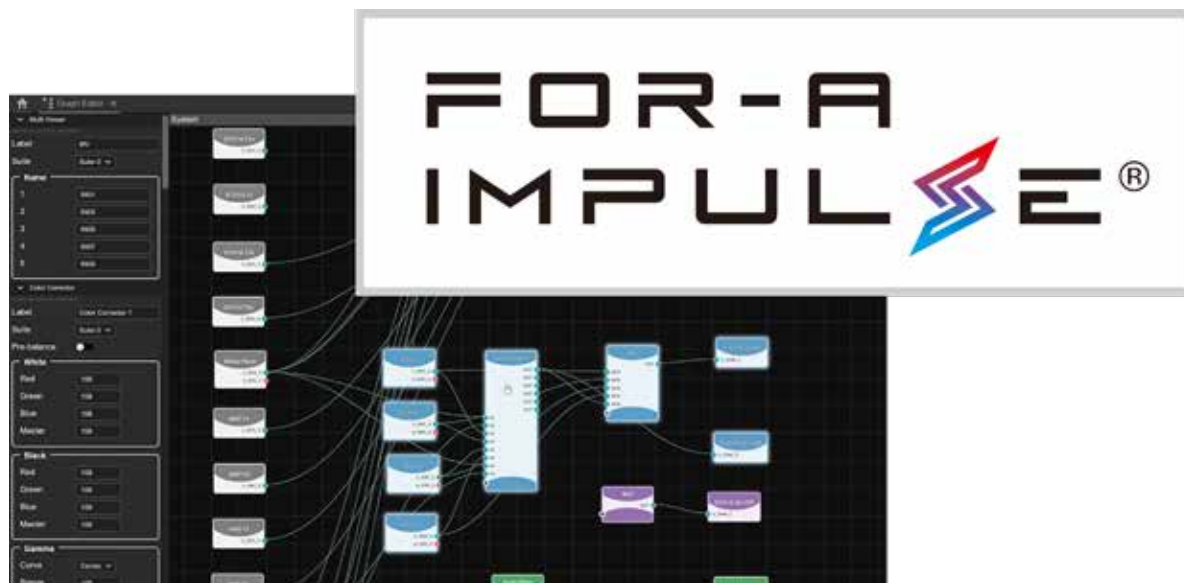


◆ LOGIC JAM 放送機材展 2026 出展概要



人員不足や業務効率化といった地域課題の解決に貢献する AI 活用ソリューションを提案

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、2026 年 8 月 25 日（火）にグランドメルキュール札幌大通公園（旧 ロイトン札幌、札幌市中央区北 1 条西 11 丁目 1 番地 1）の 3 階 ボールルーム A・B にて開催される「LOGIC JAM 放送機材展 2026」（主催：株式会社ロジックジャム）に出展（ブース番号：20）。

主な出展製品

● 機能統合型ライブ制作ソリューション FOR-A IMPULSE®

幅広い朋栄製品の機能をソフトウェア化して共有プラットフォームに集約し、柔軟なシステム構築と運用を実現するソフトウェアベース機能統合型ライブ制作ソリューション。ソフトウェア化した機能は Node と定義され、これらの Node を繋ぎ合わせることで処理パイプラインを構築し、柔軟かつ自由度の高いシステムと運用を実現。

導入時は必要最低限の Node で構築し、拡張が必要になった際には期間限定で Node を追加、不要になれば縮小するなど、スケーラビリティの高い運用が可能です。その時々での運用や必要性に応じて機器 / 機能 / 人的リソースを効率的に活用できるため、手間と時間を削減し、高いコストパフォーマンスを実現。

● 4K/HD キャラクタージェネレーター EzV-410+AI スコアボード（仮称）

シリーズ累計販売台数 1100 台を突破した、EzV シリーズの最新モデルです。NDI® 送出にも対応し、標準構成で HD

2 系統、または 4K 1 系統のテロップ送出ができ、HD 送出をしながら、もう 1 系統でプレビューを行うことも可能。今回の展示では、カメラで撮影したスコアボードの映像から得点 / BSO / 球速情報を AI で読み取り、その解析結果をもとに EzV-410 で自動的にテロップ生成する AI スコアボード（仮称）を紹介。

● LTO ドライブ TRB シリーズ / SAS シリーズ (MagStor 社)

Thunderbolt™ 3/USB4 対応の LTO10 テープドライブや Autodesk Flame 等の映像編集用データバックアップに適した SAS 接続 LTO テープドライブ、IBM 社製 Ultrium データカートリッジなど大容量のデータバックアップとアーカイブに最適な LTO ソリューションを紹介。

● メモリーカード高速バックアップ管理ドライブ TAINER/OFFLOADER 16X (ClouZen 社)

最大 16 枚のメモリーカードを同時にコピー可能なスタンドアローンバックアップステーション。スタートボタンを押すだけの簡単操作で一括コピーが行えるため、メディアの差し替え作業やコピーの完了までの監視も不要。また、接続メディアのヘルスチェック機能により、不具合の可能性の高いメディアをあらかじめ検知することも可能。

NDI® は Vizrt NDI AB の登録商標です。

Thunderbolt™ は Intel Corporation またはその子会社の商標です。

【出展に関するお問い合わせ】 株式会社朋栄 札幌営業所
TEL:011-898-2011 FAX:011-807-6200 e-mail:ad@for-a.co.jp

◆NHK: 報道・情報発信の拠点 情報棟のニュースセンター 運用開始

2026年8月9日 NHK広報局

東京・渋谷のNHK放送センターに建設した新たな施設・情報棟で、ニュースセンターとラジオセンターなどが、きょうから本格的に運用を開始しました。新しいニューススタジオ等を用いた放送・配信が、けさからスタートしています。

情報棟は、今の放送センターの老朽化を受けて進めてきた放送センター建替計画の第Ⅰ期にあたります。2024年10月末の建物完成後、放送設備の整備などの準備を進めてきました。これから9月にかけて、国際放送や、ニュース以外の一部の番組の制作・放送・配信についても本格的な運用を段階的に進めていきます。

◆報道・情報発信の新たな拠点として

情報棟には、ニュース・情報番組などの放送・配信をはじめ、国際放送の放送・配信を担う機能が備わり、放送センター内の元の場所から、順次移転します。また、多様なコンテンツを生み出すスタジオも整備されました。全国、そして海外に向けたNHKの報道・情報発信を担う新たな拠点です。

◆防災・減災報道の拠点として

首都直下地震をはじめとする大規模災害時にも、途切れることなく着実に放送・配信を続けること。そして、視聴者・国民の皆さまの命と暮らしを守ること。公共メディアNHKの使命を果たす、防災・減災報道の確かなよりどころとなります。そのため、情報棟では免震構造や自家発電設備などを備えています。

◆情報棟からお届けする番組の例

「おはよう日本」「NHKニュース7」「ニュースウオッチ9」などのニュース番組に加え、

「あさイチ」「クローズアップ現代」などを予定しています。

延床面積	77,670㎡
建物高さ*	約63m
階数	地上11階、地下1階、塔屋1階
着工	2021年5月3日
竣工	2024年10月31日
建設費	657億円

*井の頭通りからの高さ（塔屋含む）



問い合わせ NHK広報局
nhkkoho-pr@nhk.or.jp

◆フィジカル AI・国産 LLM が集結！ 「AI 博覧会 Summer 2026」注目出展社を発表



～災害現場での活用が期待されるロボットや特許技術搭載のヒューマノイド、異常検知 AI も出展。新宿住友ビル 三角広場にて 8 月 26 日・27 日開催～

国内最大級の AI ポータルメディア「Aismiley」を運営する株式会社アイスマイリー（東京都渋谷区、代表取締役：板羽 晃司）は、2026 年 8 月 26 日（水）・27 日（木）の 2 日間、新宿住友ビル 三角広場にて「AI 博覧会 Summer 2026」を開催。

今回 10 回目の開催を迎える「AI 博覧会」は、過去 9 回の開催で累計 5 万 7 千人以上が来場している AI・人工知能に特化した業界注目の専門イベントです。本プレスリリースでは、フィジカル AI や国産 LLMをはじめ、産業用ヒューマノイドロボット、異常検知 AI、AI 人材育成プログラムなど、最新の AI ソリューションを展示する注目出展社を幅広く紹介。

フィジカル AI の分野では、国内初展示となるエルザジャパンの全天候型の産業用ヒューマノイドのほか、ドーナッツロボティクスの声を出さずにジェスチャーで操作できる特許技術搭載のヒューマノイドも出展され、最前線の技術が一堂に会します。また、会話するだけで書類業務を効率化する AI-OCR や、見逃しゼロを目指す AI 行動検知など、現場の課題解決に直結するソリューションも出展。

<「AI 博覧会 Summer 2026」開催概要>

■会期 2026 年 8 月 26 日（水）10:00～18:00、8 月 27 日（木）10:00～17:00

■会場 新宿住友ビル 三角広場（東京都新宿区西新宿 2-6-1）

主催：株式会社アイスマイリー

後援：一般社団法人 日本ディープラーニング協会 / 一般社団法人 Generative AI Japan / 一般社団法人 生成 AI 活用普及協会 / 一般社団法人 金融データ活用推進協会 / 一般社団法人 ソフトウェア協会 / 一般社団法人 リテール AI 協会 / 一般社団法人 生成 AI 協会 / 一般社団法人 データサイエンティスト協会

出展対象品目：ロボット・フィジカル AI、AI エージェント、生成 AI、LLM、RAG 構築、ファインチューニング、マルチモーダル AI、ChatGPT 連携、ライティング支援、画像生成 AI、動画生成 AI、議事録作成 AI、画像認識、需要予測、アノテーション、AI-OCR、AI 受託開発、ボイスボット、バーチャルヒューマン、エッジ AI、データ分析、リスクリング、外観検査、顔認証 等

想定来場者人数：10,000 名

出展社数：100 社 約 200 製品以上

カンファレンス数：40 講演以上

公式サイト：

https://aismiley.co.jp/ai_hakurankai/summer-2026/

◆ Blackmagic Design : 「Life on Waves」 のポストプロダクションで DaVinci Resolve Studio を使用

Blackmagic Cloud を使用して、編集およびカラーグレーディングワークフローでコラボレーションを実現。



Blackmagic Design は、感動的なドキュメンタリー映画、「Life on Waves（原題）」の編集とカラーグレーディングに DaVinci Resolve Studio が使用されたことを発表した。ポストプロダクションチームは、Blackmagic Cloud を活用してリアルタイムコラボレーションを実現。また、DaVinci Resolve Studio の Fairlight ページでオーディオワークフローを効率化し、同ソフトウェアの AI ツールによってポストプロダクションを効率化して制作スケジュールを遵守した。

スティーブン・エスパルザ（Steven Esparza）氏が監督およびプロデューサーを務め、編集も担当したドキュメンタリー、「Life on Waves（原題）」は、プロのウォータースポーツ選手、サラ・ハウザー（Sarah Hauser）の物語を通して、ビッグウェーブに乗ることによるアドレナリンの興奮を探究する。「Girl on Wave（原題）」の続編となる本作では、ハウザーがウィンドサーフィンとビッグウェーブパフォーマンスの限界に挑戦する姿を追い、彼女の類稀な人生に視聴者をより深く引き込む。

「DaVinci Resolve Studio では、フッターを効率的に整理し、タグ付けすることができるため、『Life on Waves』のワークフローを最初から最後まで効率化できました。」エスパルザ氏は語る。「フッターの管理は重要で、選別作業や様々なテイクのレビューを容易にするのに非常に役立ちました。また、リアルタイムでカラーグレーディングをプレビューできるため、編集の早い段階で最終的なルックをイメージしやすくなり、シーン間の一貫性を保つことができました。さらに、マルチカム編集機能と Blackmagic Cloud を介したアシスタントエディターとの連携により、ワークフローが大幅に改善されました。」

エスパルザ氏はまた、DaVinci Resolve Studio のエンド・トゥ・エンドのポストプロダクションワークフローでは、編集から最終的なカラーグレーディングまでシームレスな統合が可能であることを強調した。「異なるソフトウェア間を行き来する必要はなく、



Resolve のコラボレーションツールのおかげで、カリリストのシェイリー・ブルックス（Shaley Brooks）との作業もスムーズに行えました。彼はリアルタイムでカラーグレーディングを調整でき、その間に私は同じプロジェクトファイルで編集を微調整することができました。」エスパルザ氏は続ける。「適切にラベル付けされたピンとタイムラインによる整理された編集システムのおかげで、シェイリーのカラーグレーディング作業はよりスムーズになり、時間や手間を削減できました。」

「カメラのオリジナル映像を使用するのでストレージ容量がかなり大きくなりますが、ここで Blackmagic Cloud Store が真価を発揮しました。特にプロキシワークフローや Blackmagic Cloud を介したリモートでの共同編集作業において重宝しましたね。」とブルックス氏。「また、トランスコードせずにファイルをトリミングするために、Resolve のメディア管理ツールを頻繁に使用しています。これにより、ストレージ容量を削減しながら、オリジナルのカメラメディアで作業を続けられます。」

ブルックス氏もまた、エスパルザ氏の意見に賛同した。「『Life on Waves』は、DaVinci Resolve を映画制作者にとっての中核的なツールとして活用した素晴らしい事例だと言えます。スティーブンがクリエイティブ編集に Resolve を使うという決断をしたおかげで、ポストプロダクションのスムーズなパイプラインを実現でき、彼のオリジナルの "オフライン" クリエイティブカットを使ってプロジェクトを仕上げられました。これにより、最小限の手間でカラーの作業に移行でき、従来の "オンライン" のステップを効果的に省略できました。」

プロジェクトのポストプロダクション作業をさらに効率化する上で、DaVinci Resolve Studio の AI ツールが不可欠であるとブルックス氏は語る。「ネイティブの 23.976 フレームレート以外の素材には動き推定ツールを使用し、スティープ以外が撮影した映像やスチルなど、解像度の低いソースには Super Scale ツールを使用しました。これらの機能のおかげで、サードパーティ製の AI ツールを使う必要性がほぼなくなり、ワークフローが大幅に改善されましたね。Resolve のフェイス修正ツールも普段よく使っています。今回のプロジェクトではそれほど必要ではありませんでしたが、役に立つ場面では選択的に使用しました」とブルックス氏。



「DaVinci Resolve StudioのAIオーディオツールには本当に助けられました。クリップの中の厄介なセリフや背景ノイズを、いとも簡単に除去してくれたんです。」エスパルザ氏は続ける。「オーディオを分離して改善することで、撮り直しに費用をかけることなく制作スケジュールを守ることができました。」

エスパルザ氏はまた、DaVinci Resolve StudioのFairlightページで、クリーンで整理されたステムをミキサーのスティーブ・グリフィン（Steve Griffin）氏のために簡単に書き出せたことが、オーディオワークフローの効率化に役立ったと強調した。「Fairlightのページは、納品物の管理にも使用しています。サウンドミキサーが指定通りにオーディオが適切にマッピングされ、正しいレベルになっていることを確認しています」とブルックス氏。

「私がDaVinci Resolve Studioに移行したきっかけは、RAWファイルとのシームレスな連携とレンダリングの速さでした。それ以来、後悔したことは一度もありませんね。Blackmagic Designのおかげで、高品質かつコスト効率の高い映画制作を手軽に実現できるようになりました。これらの製品を使って私たちが作成した作品を誇りに思っています。」エスパルザ氏は最後こう結んだ。

会社概要

Blackmagic Designは、映画、ポストプロダクション、放送業界に向けて世界最先端のビデオ編集製品、デジタルフィルムカメラ、カラーコレクター、ビデオコンバーター、ビデオモニタリング、ルーター、ライブプロダクションスイッチャー、ディスクレコーダー、波形モニター、リアルタイム・フィルムスキャナーを開発している。Blackmagic DesignのDeckLinkキャプチャーカードは、その品質と価格で放送業界に革命をもたらした。また、エミー™ 賞を受賞したDaVinciカラーコレクションシステムは、1984年以降、テレビ、映画業界の中心となっている。Blackmagic Designは、現在も6G-SDI、12G-SDI製品、ステレオスコピック3D、Ultra HDワークフローなどの独創的な革新を続けている。世界をリードするポストプロダクションエディターやエンジニアにより設立されたBlackmagic Designは、現在アメリカ合衆国、イギリス、日本、シンガポール、そしてオーストラリアにオフィスを構えている。

詳細は www.blackmagicdesign.com/jp

◆リーダー電子：8月19日～22日開催のBIRTV 2026に出展。

テーマは「Test with Clarity, Measure with Accuracy, Monitor with Confidence.」

IP/SDIに対応した最新のテスト・測定・監視ソリューションを紹介し、放送設備やIP制作システムの安定運用を支援します。

主な展示のご案内

波形モニター LV5600W



12G-SDIと25G IPに対応したハイブリッド波形モニター「LV5600W」を展示します。SDI/IP混在環境やHDR/SDR、JPEG-XSなど幅広いフォーマットに対応し、波形・ベクトル・音声ラウドネス・ア

イパターン・ジッター解析など、多彩な測定・監視機能を搭載。IP化が進む放送設備やリモート制作環境における効率的な信号監視を実現します。

SyncAlignによる同期システム LT4670 / LT4448

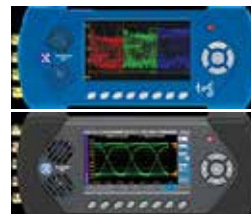


同期信号発生器「LT4670」、チェンジオーバー「LT4448」、専用ケーブル「LC2187」を組み合わせた「SyncAlign」を展示します。PTPとブラックバー

ストなどの同期信号を連動して切り替えることで、主系・予備系の切り替え時にもシステム全体の同期を維持。映像・音声の同期ずれや映像乱れのリスクを低減し、放送設備の高い信頼性を実現します。

PHABRIX シリーズ Sx TAG / SxE / QxP

PHABRIXブランドのIP/SDI対応テスト・測定ソリューションも展示します。携帯型IP/SDI解析ツール「Sx TAG」、SDI物理層解析機「SxE」、波形モニター「QxP」など、制作から設備保守まで幅広い用途に対応する製品を展示します。



Sx TAG



SxE



QxP

お問い合わせ

本社営業部 Email: sales@leader.co.jp

Tel: 045-541-2122